



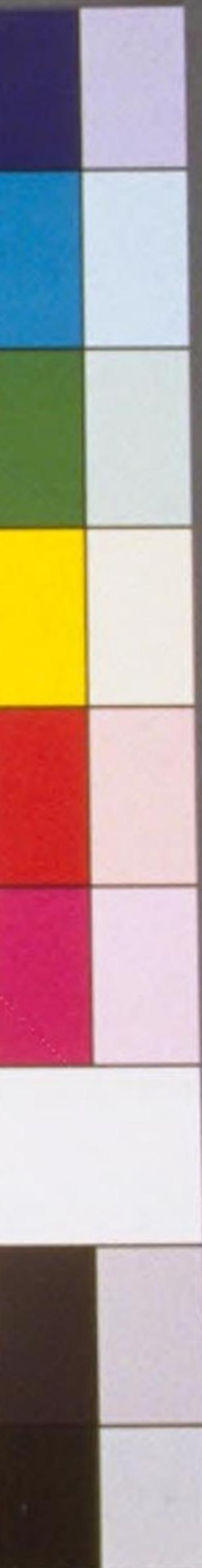
甲陽軍鑑 35 冊 WA 32-1



19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

04-001

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

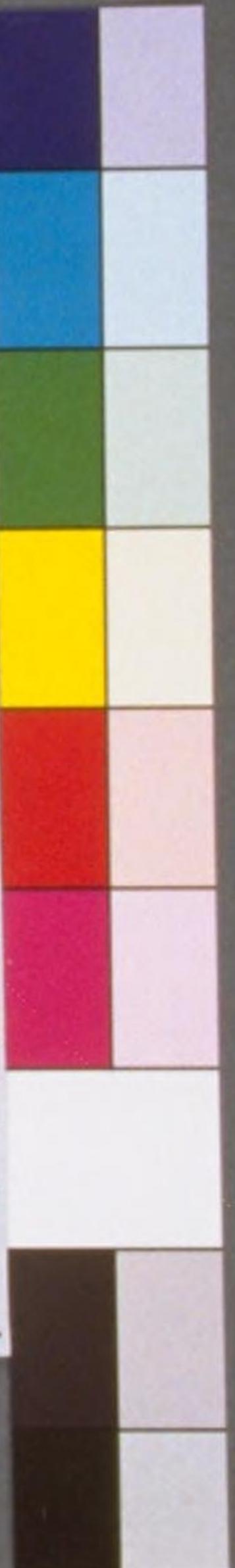


04-002

国立国会図書館

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
inch

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1



甲陽軍鑑卷第十四

小善原

列傳

印

村長はまことひがくにんじの事

佐々木少年の事

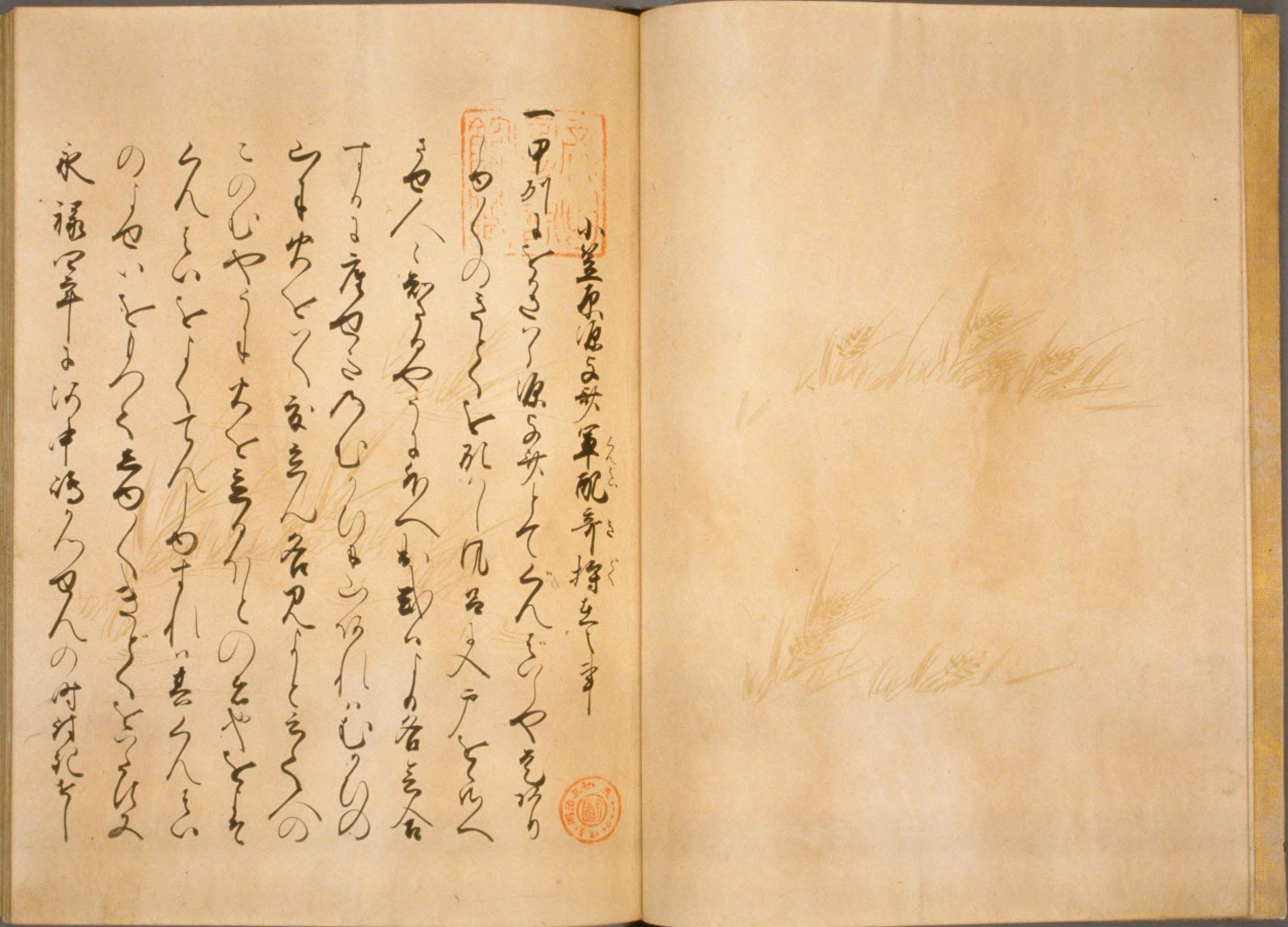
清家事の事

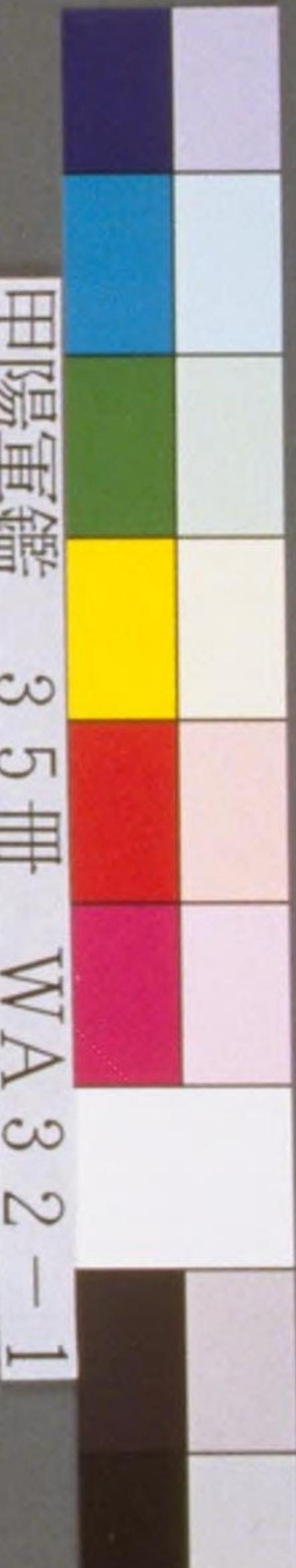
印

印

19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
Inches
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

04-003





の事あるにまでもう少しの間
人間の心は人間の心をも軍服へ身に
のこやすらぎゆくゆくへ通じる人との富
角眼鏡のくへておもむかに於けるが
うるるにあらわすれどもかくしてかく
わざへとおひきへうつても一時ぐら
小豆原宿にあつておひきへうつても一時
済みおこなうるに軍配のれまへるまわ
うるるにてやうのわづかうるる
あらわすれどもかくしてかく
おひきへとおひきへうつても一時ぐら
とおひきへとおひきへうつても一時ぐら
もよくよくしゆくのうすくもよく
くのうすくもよくしゆくのうすくもよく
くのうすくもよくしゆくのうすくもよく
くのうすくもよくしゆくのうすくもよく
もよくしゆくのうすくもよくしゆくのう
サへ口をえきてほ人のまほりをかへる
まほりをかへる封印のまほりをかへる
まほりをかへる

19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

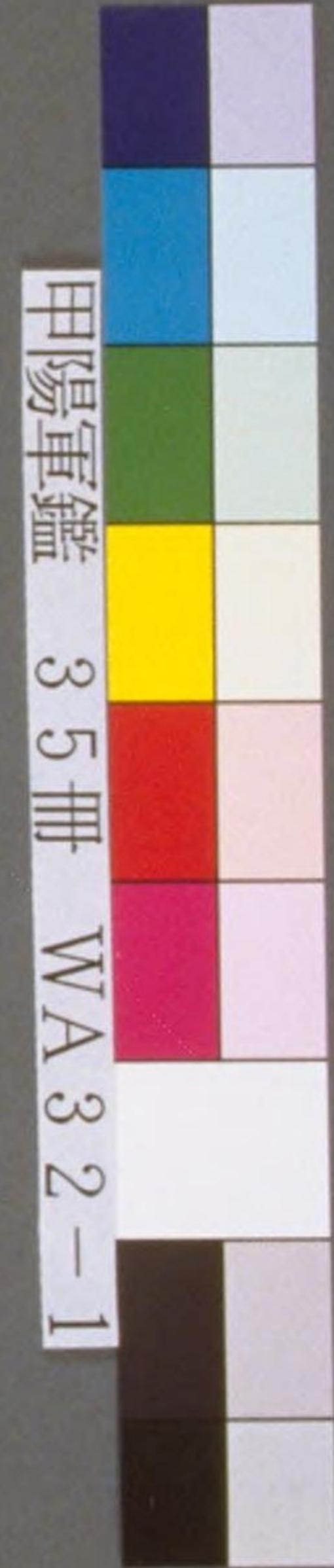
04-005



の事は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、
今後は御心付の事であるが、

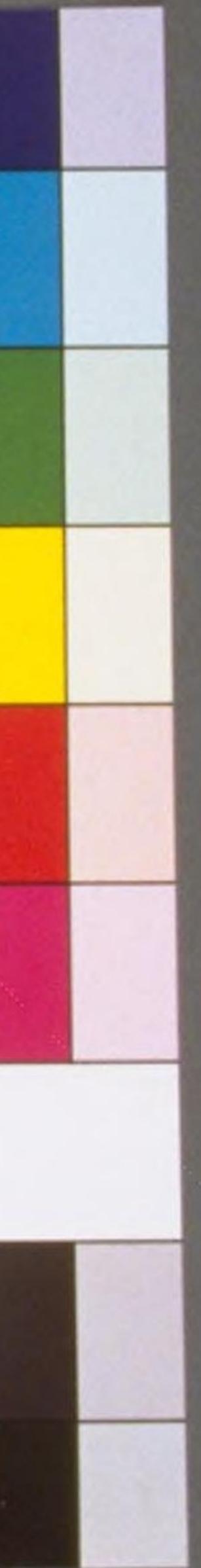
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
Inches

04-006



めんじとすらまのめの
まつやまゆるわきをやくと
えんじとまくわきをやくと
こむじとまくわきを
やのくわきを國か
みくわきてのくわくわく
わくわくわくわくわく
りくわくわくわく
のくわくわくわく
くわくわくわく
くわくわくわく
てくわくわく
くわくわくわく
くわくわくわく
くわくわくわく
くわくわくわく
くわくわくわく
くわくわくわく
くわくわくわく

Inches 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19



て二百三十人の衆を乗せ
今度は船の上に立つて
船を進めてゆく
わが軍勢もまことに
日本を守る
國を守る



主事又日とて御奉手の御内侍とて
アリシテ之の御んじりをうけてお
ト御々ととくがとうちにされりと
お長治も不正のやうとひめすてま
さのやうととせり。清列の御内侍
モ御内侍法をもうちりて御内侍
の御内侍ととくがとうかんとての
御内侍をわき御よりととせりと
お内侍の御内侍はれり。四年九月大
膳らまく。ウタクレ。おおのあやうい
タのきりにてその御内侍
アリモ内侍の御内侍をとてお内侍
五年の御内侍を八百束れり。と
リくとくの御内侍を八百束れり。と
さき御内侍を八百束れり。御内侍
御内侍を八百束れり。御内侍を
アリツヤセ。サムシテ。モアシテ。アリツ
アリツヤセ。サムシテ。モアシテ。アリツ
七年。アリツヤセ。サムシテ。モアシテ。アリツ



同九年六月又五年の年中八年廿二年
つりやつと法より大ハシムツツヒ
カツツツト法より甲列へ年行之
天又三年の年中八年のうの月法より大
の法より甲列へ年中八年又廿二年
八合前から法より大ハシムツツヒ
八年又九年の年中八年又廿二年
一村より年中八年又廿二年
十七年又九年の年中八年又廿二年
の法より大ハシムツツヒ
八年又九年の年中八年又廿二年
八年又九年の年

天又三年六月吉日 三藏院記

到此處是之のま 村長源兵衛

是之の年

永福二年又五年の年中八年又廿二年
の法より大ハシムツツヒ
八年又九年の年中八年又廿二年
の法より大ハシムツツヒ
八年又九年の年中八年又廿二年

19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

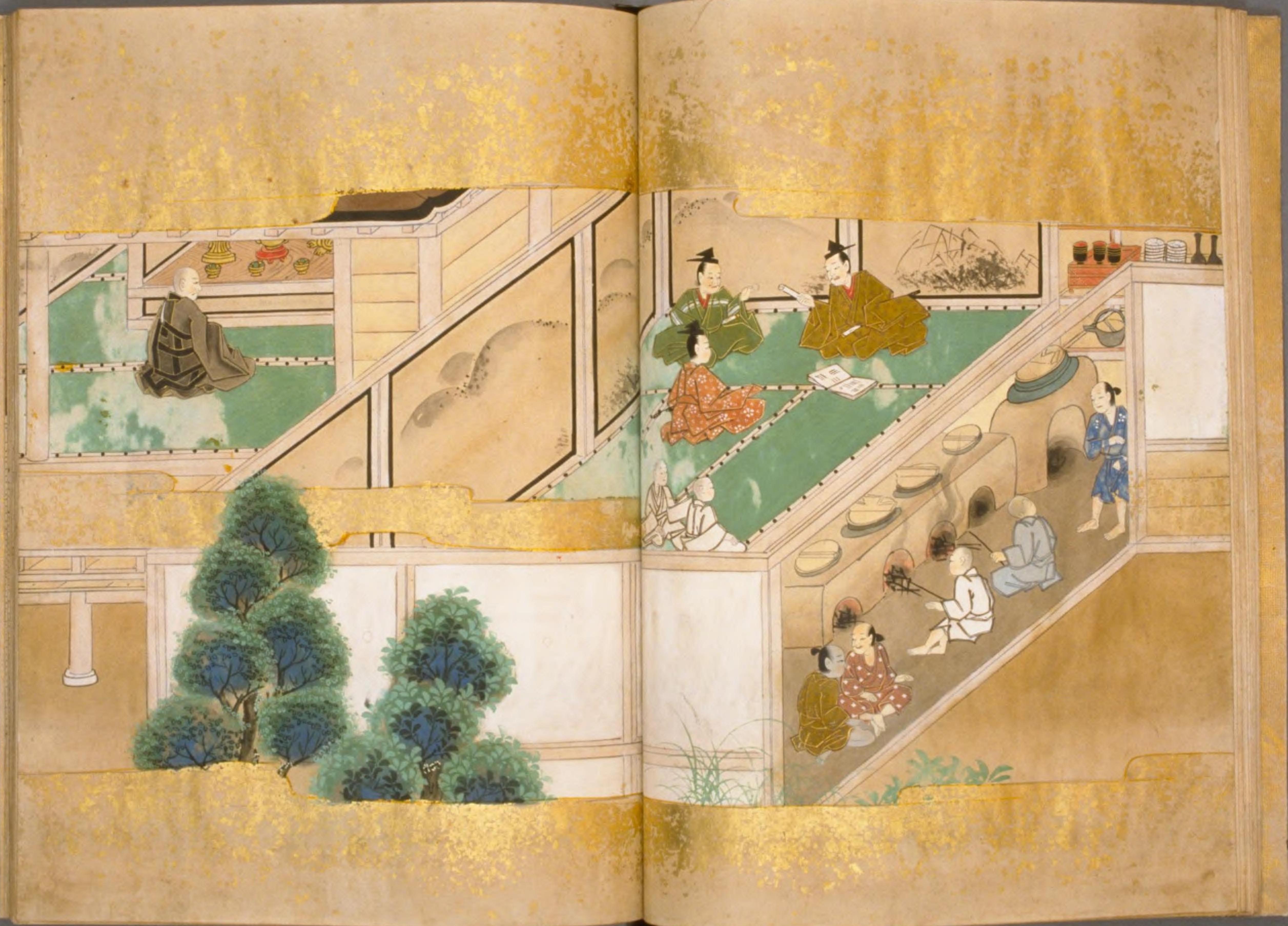
04-011

皆有宿主てありやうも無く
トモハ行はね由良河内に於て之を
見ゆる事無れ候水田の間で之を
百萬のあり水代わくとあらう事あり
其年水下すて一ノ年とびりやうなれ
うるくつゝ生き残る所下等也
久人高ちよちの處を古風と云ふ
のうとくをよほしててこの所書生
うすやうはまくとてうつりのうとく
りとて今せんうくのうとくの
てくにゆすまかにゆくつてうれき
ま義寧はるてつるまきくわざひ
人とくれへ今とくとくとくとく
とくれ家へぐらてくのうとくのう
とくとくとくとくとくとくとくとく
りとくとくとくとくとくとくとくとく
ニとくとくとくとくとくとくとくとく

アラハタニシカニ

甲陽軍鑑

35冊 WA32-1



04-014

7
6
5
4
3
2
1
Inches
12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

国立国会図書館

多々の事は御心でござり
おまかに御心でござり
はとておまかに御心でござり
れよ御心でござり
おまかの事は御心でござり
ちとおまかの事は御心でござり
川河年まつておまかの事は御心でござり
すとおまかの事は御心でござり
仰小行。角



御心の如くと申ゆて居る事
すまうておもひておられたるのを
おもへるゝを思ひやうとて此陳氏庫
直す國田^信也通川家原にとく
さみゆつておもむかわらひやうと
是る事あつておもむかわらひやうと
庵さんとへきのうそとせとと
おん中行とお通利とおんのうふ
圓木ハリタリ
日とこよかくわかつておだいりつれ
ひ生石なるべからんおのれとおなげ
さうしておちよとおまへだおのとおな全のを
おとおほれ難庭やうとよとおな
めがおとよとおまへ果をとおなめのを
すたおとよとおまへくらのをとおな
ほとうつかれおまへくらをとおな
みとくらくわいとおまへくらをとおな
えんやうるるのじらの石金よりの

て一月でやうとうをやめたが
まかわらのものと多く耳に
はるかのをうるさうのあた
まつり四年まで今までのもの
をかくして今七十歳をくわ
まきかへり身更わいのよ
にやわらの角とて
おもいにや甲引（一日うなぎのそ
すんとくへのよをつて
えりせはづりのくにせが
おのの歌うぐれてわからとやへ聲
えくととくとくつらふみのく
れへゆくかはまくがくらうり
むかとけりくとくは
ゆくとくとくとくのく
とあてりんとくせらうくのく
とくとくとくとくのく
とくとくとくとくのく

19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
Inches
1

04-017



て國とやうへるにあつておもひ
まへるがゆゑにわざへてかへり
もあきらめまくらにがはるへてはま
けむとくのまくらをかんじてはま
とせんじゆうかのたすきのたすき
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす
うそとじつたのたすきをかくす



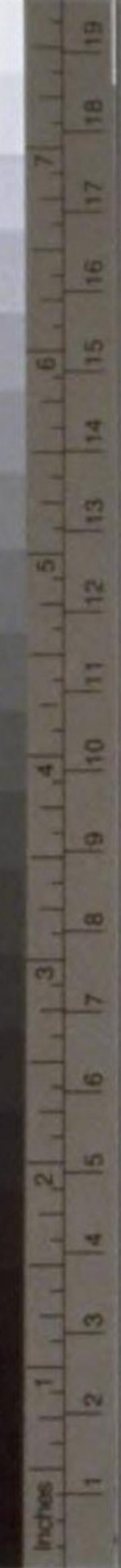
まくらに寝てゐる人をもと
のうへてひきのれりへんぐ
さざくせんりとおはなすあれ
とひのうすすめをゆせりや
みくわのうへんぐをゆせり
八卦のうへんぐをゆせり
とひのうすすめをゆせり
まくらに寝てゐる人をもと
あひゆいだのうへんぐをゆせり

19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

04-020



の事は御心付の事と申すが
おもに御心付の事と申すが
おもに御心付の事と申すが



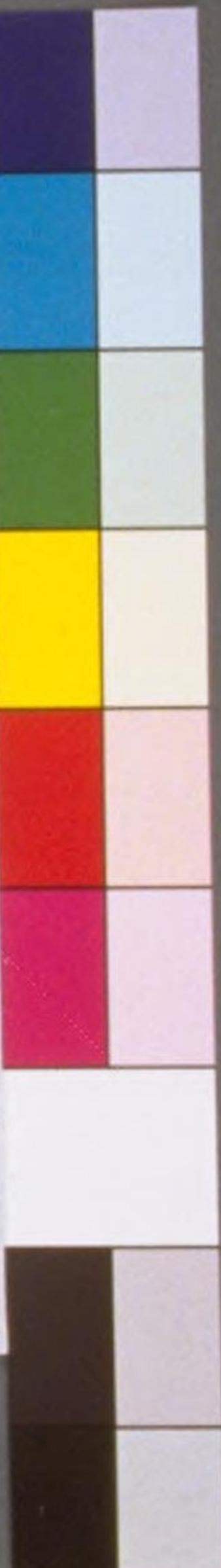


おとづれのうかひのくわらひのうかひの
うやんへまくはもくのうかひ
おへるりんじらひうやひつよ
うきとまくはなすくわくひく
うきゆうくわくしてやくわれてゐ
うきとまくはなすくわくひく
からはくとまくはなすくわくひく
とまくわくとまくはなすくわくひく
とまくわくとまくはなすくわくひく
て面白くわくひく

ほきゆけ歌い合之書

一甲斐國守山行吉ひやまてすまうたを
シテ大治九年四月の吉日吉人喜む
のゆす舞守山行吉とつゝをのめ
白川とてててての日の吉日一喜守山行
吉の吉日とててての日の吉日一喜守山行
吉の吉日とててての日の吉日一喜守山行

もとす一死をも曰く死んで死りぬ
はもよとさんやれてもんのうのた
よせえさんさんまくはれりのひね
き年々一重更にかくはるもる
のや振りへんをま回をうわくや
ほまこけ居とひら金年へもれ候よ
の後すと田へとねまういはへ
の後時つりんじくのあつてておも
てやへのやめれた人の下へゆくは
あつてておもくはりうさんとの後年
りくまきうらのち今せらまつ封御半わ
のちくまへやうくまくらうりたにえ
きくまうんすまうくまうくまうの背
せせんをねんへまうくまうくまう
くまくまへゆのけうんぐやなまがをまうてめ
日くまくまくまくまくまくまくまくま
れのくまくまくまくまくまくまくまく
田す御高馬なり日くまくまくまくま
くまくまくまくまくまくまくまくまく

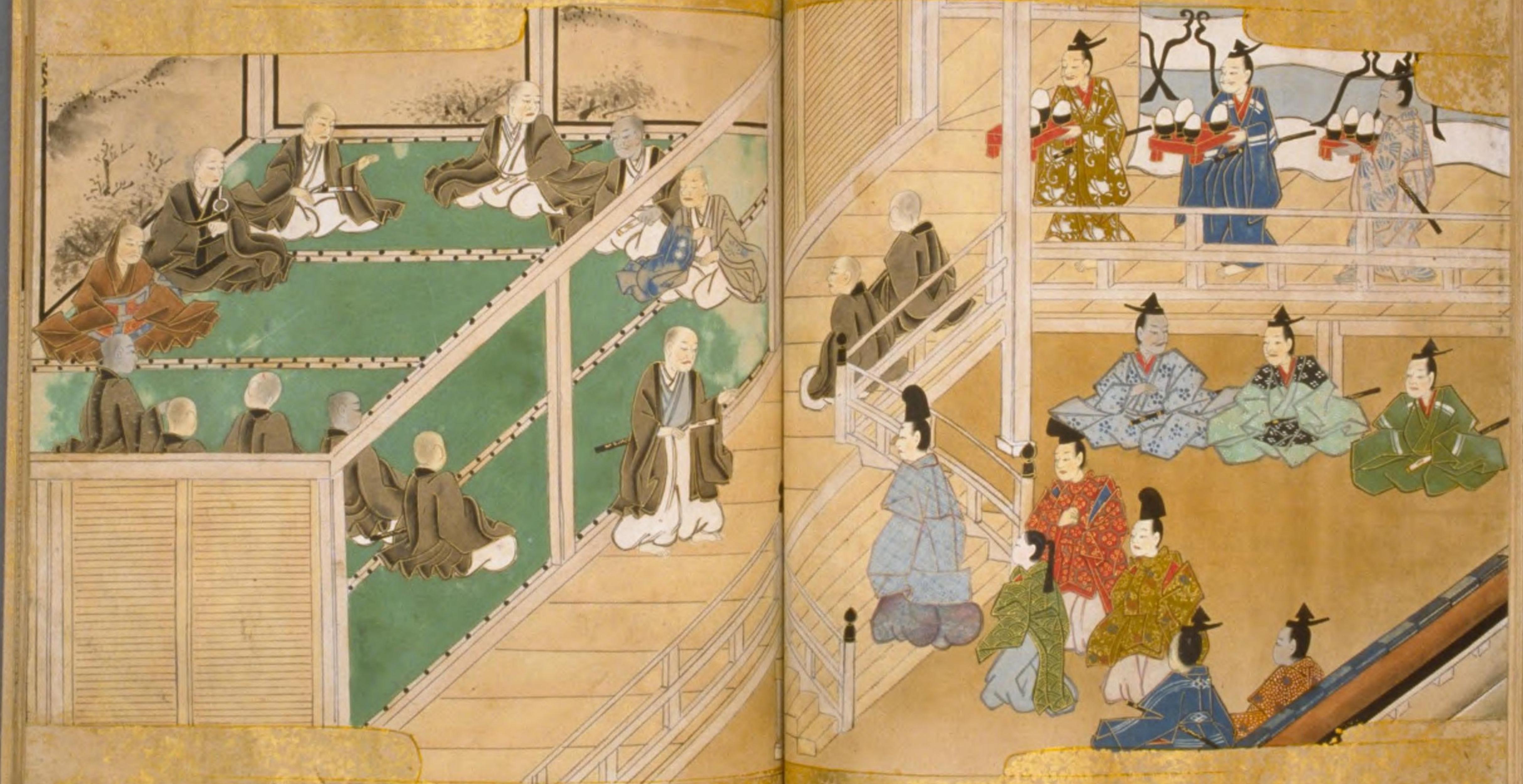
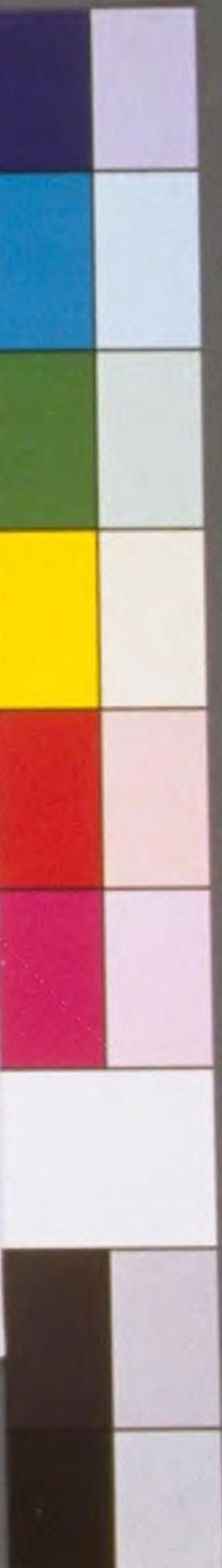


の爲めにまことにあつた
つらうのうへてのまゝえ
まゝいきよへるやうにま
りやうぢやくめ東軍人のひへ
るをとゆかはしまさすを
うやかんせんじまつよ
きゆわひまくへんじまつよ
のうでまといな一まきへんじ
まくまくまくまくまくまく
やせぐらひまくまくまく
まくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまく





まかんさんごまのうりんとくとをだら
ひわやへじてま松洞のす。ひがすも
こあらきくわまし。ひがすもおの
とをだらくじ。ひがすもおのの
トアレ。まのの筋。今じくはも
ねくらへは。まくにまくにまく
のあやまつぬけらす。おとてゆく
やうじまよへやうじまよへやう
のうじまよへやうじまよへやう
もよのほま。まよのほま。まよのほ
うまよのほま。まよのほま。
まよのほま。まよのほま。まよのほ
一豆のまよのほま。まよのほま。ま
食。まよのほま。まよのほま。ま
ゆく。まよのほま。まよのほま。ま
士。まよのほま。まよのほま。ま
れ。まよのほま。まよのほま。ま
まよのほま。まよのほま。ま



とぞしてやうしとくひ
すよかとておひり
くに見るものなりゆき。
さてヤハルしてこのら
うい、もうほんよひく
うすとひつてゆよひく
またとさうしてゆよひく
ちうりいとせよひく
うのゆよひく
ゆくらうりうる
れ

筒死

武田信玄

主君ぬひとくられか死
ちよくのえにうて

云うあせんくのうす
はがちのくらむ

主君年六月吉日

主君年六月吉日

主君年六月吉日

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19



はまくまきしゆゑの年譜合の事
一五〇四年正月とあるとす。すまうて
ウムトマリハリスヨロハムシタモ
モリハキツアシの事とす。人と教わ
てウツモハ四月。うつりてめげりよ
そくとくめくもす。うつりよるくよ
まきは即ハツヒツトツリヤ。

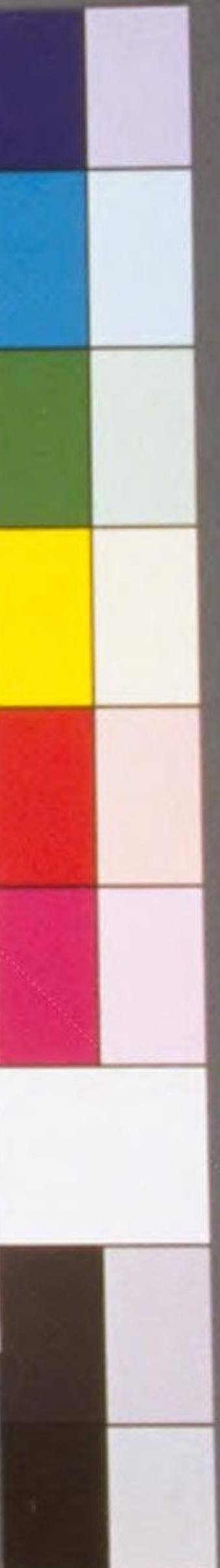
第六三回

モリハキツアシの事や。モリハキ
ツアシの事。

モリハキツアシの事や。モリハキ

モリハキツアシの事や。モリハキ
ツアシの事。モリハキツアシの事
モリハキツアシの事。モリハキツ
アシの事。モリハキツアシの事。
モリハキツアシの事。モリハキツ
アシの事。モリハキツアシの事。
モリハキツアシの事。モリハキツ
アシの事。モリハキツアシの事。
モリハキツアシの事。モリハキツ
アシの事。モリハキツアシの事。
モリハキツアシの事。モリハキツ
アシの事。モリハキツアシの事。

信ちむか五也のまきおひらきうるる
くぬいにむくのまほとへじまらまく
あらやておまよめしはんこすもま
まゆふたがゆゑむらへりくわうのま
まつあへはんこもと年白い月
二日はまちむるをけのむ月
馬場赤志すくまくまくとゆく
うのまくえもお金の年中ひま
きくまむらばくくま金子じかん
おひくへくはくはくはくはくはく
しゆく三事やをとくわくわくわく
ト法吉らゆのくのくのくのくのく
くすらまくまくまくまくまく
入るくやとくはくはくはくはく
多くトうのまちむらひま年白
せんじゆくちのくまくまくまく
まくまく馬場もひまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまく



り上へかと見ゆよとひそめぬるゝ事
金のえぢりしる事大儀とてすがと
とま車の内大儀とてすがとて
内院とてすがとてすがとてすがとて
あらきつてすがとてすがとてすがとて
あらきつてすがとてすがとてすがとて
あらきつてすがとてすがとてすがとて
あらきつてすがとてすがとてすがとて
あらきつてすがとてすがとてすがとて

マヤヒツ





おやおやかにあひしたままで内をもとよ
くうれどくやうのまごころの清々まつて
おうへそくと仰れるものとおうへ
まじわはるからゆくはるからゆく
ましんあがみの物物の心とまつて
うとうへはるからゆくはるからゆく
ちゆふかとすらぬれりてもあがみ
てたゞかまほへるもくらむとあがみ
くらむかまほへるもくらむとあがみ
のまくらむかまほへるもくらむとあがみ
とくらむかまほへるもくらむとあがみ
時望重じよやか所のまくらむとあがみ
おやうへくまくらむとあがみ
おもとと仰れるのまくらむとあがみ
もととと仰れるのまくらむとあがみ
もととと仰れるのまくらむとあがみ
もととと仰れるのまくらむとあがみ



と也無人の所へてかくまつたる者
をあらわすとては御殿の外へて之の事
とて如何にてとては御殿の外
とて御殿の事とては御殿の外
とて御殿の事とては御殿の外



中華書局影印
35 冊 W A 32 - 1

のとおるにそよぐとおるにそよぐ
のとおるにそよぐとおるにそよぐ

内高馬場のとおるにそよぐ

東洋人をもののとおるにそよぐ

東洋人をもののとおるにそよぐ

のとおるにそよぐとおるにそよぐ

甲陽軍鑑 35 冊 WA 32-1



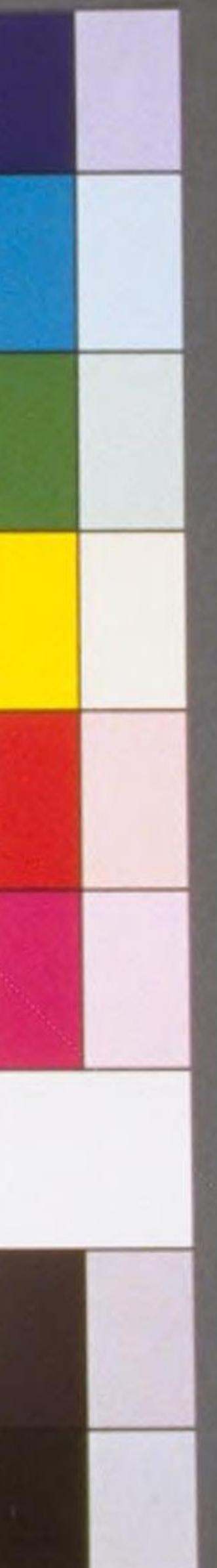
04-034

19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
Inches
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

其日も不思議の心をもとめ、このへ
にありてはるかに其の如き人等と之
をさうのむかうとつり、一時の間、
其と不思議の事あつてうなづくの外、
多大の心事あることをうなづくのである
と見ゆ。又若くうなづくの外、其と
のつゆへとては、もとと云ふの外、
と見ゆ。そのまゝとて、人等の心と
人等の心とて、うなづくのであると
見ゆ。又、其の事は、うなづくのであると
見ゆ。其處に、本居宣長が、かくへひ其の筆を
て、二十九年（いつよんねん）から、三十六年（さんじゅうろくねん）まで
の間に、へりくとて、而作成したが、是を、
久面年（きみねねん）の筆とて、小林氏（おだやし）とて、
りて、て、りて、りて、りて、りて、りて、りて、りて、りて、
りて、て、りて、りて、りて、りて、りて、りて、りて、
りて、て、りて、りて、りて、りて、りて、りて、りて、りて、りて、
りて、て、りて、りて、りて、りて、りて、りて、りて、りて、



まことに此の久のやうな事の如く
でさすは居長一百余戸もその備の
ものにててかのとくとくとくとくとく
となりていかぬ毎年秋の秋家席に備す
とおとせりやうやうりとせりお家席、えとまち
くわゆくへてててててててててててて
すすの家すの名うぢもこのうとても
まけましてもくじいせんとするのと
たのんせんせんせんせんせんせんせん
せんせんせんせんせんせんせんせんせん



おもむろとてうつりてゆく
圓くしてはるかにやまくのる
らさんとひだりとゆきあはる
ふたうれりゆきのりてんじてん
まわれうてかづくすとくとく
まきつまくして元のまつまくを
つまみのまくすとまくすとまく
ちゆへよまくとまくとまく
まくとまくとまくとまくとまく
まくとまくとまくとまくとまく





日暮と申すとやうに
「やまとひのきの山の木」
の木から流れ出る水を
みたまつてさあにさりと年始
月大ハリにうとうともへよし色ひて行
くにゆくへ家もむんりんとての東
川をゆくあまく月大一夕にせまく
らしきるそよぐそよぐそよぐ
そよぐそよぐそよぐそよぐ
そよぐそよぐそよぐそよぐ
そよぐそよぐそよぐそよぐ
そよぐそよぐそよぐそよぐ

三月三日吉日 お詫びを申す

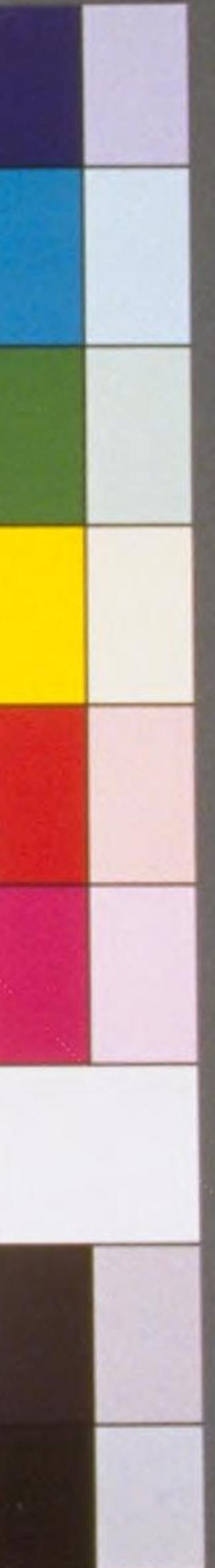
いまお詫びを申すが故ゆひさんうらやま
うらやまゆひゆひゆひゆひゆひゆひ
うらやまゆひゆひゆひゆひゆひゆひ

まんづ年

19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0
Inches

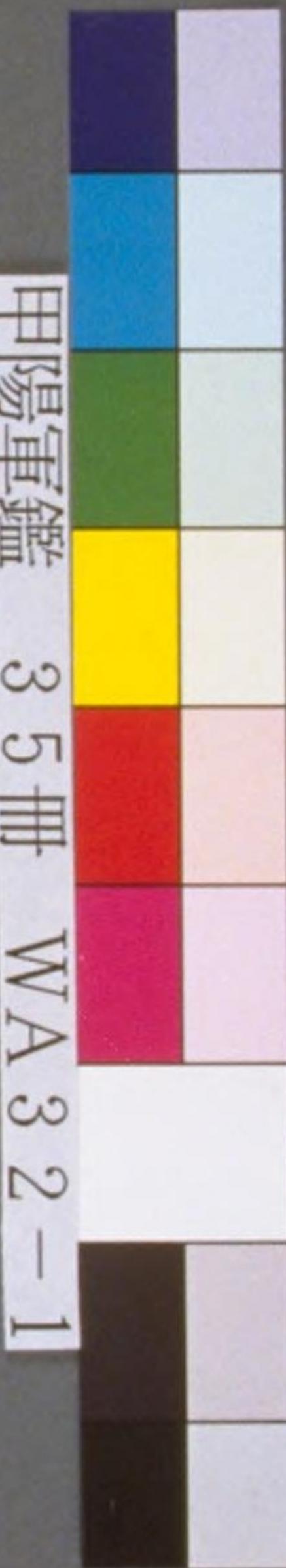
0 4 - 0 3 8

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1



04-039

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Inches



甲陽軍鑑 35 冊 WA 32-1



04-040